

# ふるさと奥尻通信

令和2年8月21日  
奥尻町教育委員会発行  
事務局：01397-2-3890

海洋研修センターと稲穂ふれあい研修センターにて無料配布しています。奥尻町役場ホームページからもダウンロードできます。

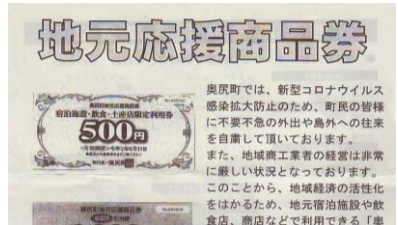
## 巻頭言

人間の歴史はウイルスとの戦いの歴史でもある。ウイルスは人間他の動物である「宿主」が存在しなければ生きていけない。克服しようとする人間との戦いでもある。果てない両者の知恵比べ。

## 特集 奥尻でコロナ禍をふり返る その①

2019年12月、中華人民共和国武漢市周辺での感染者発生によって明るみになった新型コロナウイルス(COVID-19)の猛威は、半年経った現在(2020年7月末)でも世界的大流行(パンデミック)が続き、収まる気配を見せません。その発生源と拡散経路の究明、有効なワクチン開発、日常での対処方法の確立など、全世界的に様々なレベルで同ウイルスに対処するために日夜思考を巡らせているところです。

さて、ここ奥尻島でも北海道、日本政府による連日の発表によってその対応に迫られるとともに、離島ならではの特殊事情も加わって神経の使う毎日となりました。その経緯をダイジェスト的にまとめておきます。1月時点では、国内及び北海道内でも注意喚起が行われる程度であり、島内外の往来にも支障はありませんでした。その後、2月11日まで行われた札幌雪まつり以降から道内の感染者数が増加し始め、28日には鈴木道知事より「緊急事態宣言」が発令され、翌日には初めて週末の外出自粛要請が出でました。これは首都圏よりも早い措置でありましたが、この頃は北海道の方が本州よりも患者数が多かったのです。



奥尻町内で配られた商品券



手作りマスク寄贈に取り組む青木さん

3月2日、開催が危ぶまれた奥尻高校卒業式がZOOMアプリを利用して挙行され、島留学1期生が巣立ちました。以降、対面を避けた会議や遠隔授業などでZOOMは多用されます。25日、世界的な広がりを見せる一方、先手を打った北海道では緊急事態宣言が解除され、町内の文化施設の利用も再開されていきました。落ち着きを見せる道内を脅かすように首都圏では徐々に感染者数が増え始め、4月7日には7都府県に緊急事態宣言が出され、テレワーク導入が要請されました。この頃島内でもマスク不足が深刻化し、町民有志によって、島内の幼小中高の児童生徒に手作りマスクが届けられました。16日には宣言が全国に広がり、北海道は特定警戒地域に指定され、自由な往来は事実上不可能になりました。地域医療含めてインフラが弱い奥尻島は、他の道内離島と歩調を合わせる形で「来島自粛のお願い」を表明し、理解を求めました。GW連休期間は出入りが少なく、とても静かな島内となりましたが、一方では地域経済への影響が深刻化を見せ始めており、町は独自の商品券(1世帯に1万円)を配布し、事業者向けの給付金その他、国の定額給付金(1人に10万円)の受付と入金作業を開始しました。5月31日、ようやく来島自粛要請が解除となり、6月1日に奥尻高校入学式(全国最後)を挙行、2日より奥尻島津波館が、4日より稲穂ふれあい研修センター(歴史資料館)が今季の開館日を迎えることが出来ました。19日に都道府県の境をまたぐ移動自粛要請が解除され、次第に人の動きが活発化するとともに、島への観光客の姿も見え始め、7月に入ってからは北海道による「どうみん割」や国による「Go Toキャンペーン」などの旅行費補助制度が開始され、宿泊客の需要も増えてきています。次号につづく。

## 奥尻島内他コロナウイルス関係年表

2019年12月	中国武漢市で肺炎発生の発表(12.30)
1月6日	武漢市の肺炎を厚労省が注意喚起
1月16日	国内で初の感染者確認(武漢渡航者)
1月28日	道内で初の感染者確認(武漢の旅客)
1月29日	武漢からのチャーター機第1便羽田着
2月3日	感染者発生クルーズ船横浜入港
2月11日	WHOがCOVID-19と命名する
2月13日	国内在住者で初の感染者死者
2月14日	北海道在住者で初の感染者確認
2月25日	道内小中学校休業要請(27日実施)
2月27日	北海道檜山管内で初の感染者確認
2月28日	北海道の緊急事態宣言 0319まで
2月29日	道知事より週末の外出自粛要請①
3月2日	奥尻高校zoom卒業式(島留学1期生)
3月11日	WHOがパンデミック(世界的流行)表明
3月20日	北海道の緊急事態宣言解除
3月25日	東京都が週末外出自粛要請
3月26日	奥尻町内の文化施設利用再開
4月1日	国内全世帯に布マスク2枚配布表明
4月2日	奥尻高校休校。後、5月31日まで
4月7日	7都府県に緊急事態宣言
4月11日	7都府県下の企業にテレワーク要請
4月14日	奥尻町が島への来島自粛要請表明
4月16日	全国に緊急事態宣言。道「特定警戒」
5月4日	緊急事態宣言を31日まで延長
5月6日	奥尻町が来島自粛要請を延長
5月14日	緊急事態宣言を一部解除。道は継続
5月20日頃	地元応援商品券が配布され始める
5月21日	町内で国の定額給付金受付開始
5月28日	町内で国の定額給付金入金開始
5月31日	奥尻町への来島自粛要請解除
6月2日	東京アラート発動
6月13日頃	奥尻町内にも「アベノマスク」届く
6月19日	都道府県をまたぐ移動自粛要請緩和
7月1日	奥尻フェリー乗船券補助事業開始
7月22日	GO TOキャンペーン(旅費補助)開始
7月29日	国内感染者1日1000人超。岩手初確認

町内

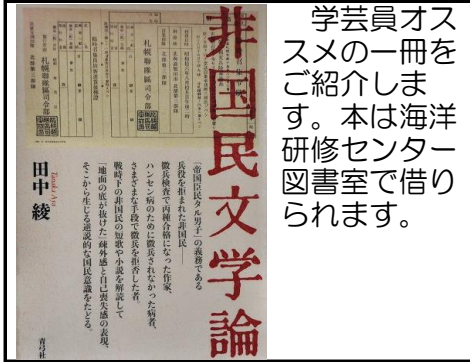


地元新聞社でも別刷りで特集





昭和32年6月の神威脇小学校運動会の後に撮影したと思われる教員と地区の若者らの集合写真です。背後に鳥居があり、さらに裏手には社が見えます。これは現在の道道沿いの高台に移転してある少彦名神社の前身で、この頃は小学校グラウンド(現在は荒れ地)の奥に鎮座していたようです。この神社は、昭和20年頃には港手前の沢を下った道道(当時は未整備)沿いにあったのだそうです。



学芸員オススメの一冊をご紹介します。本は海洋研修センター図書室で借りられます。

非国民文学論  
田中 綾

兵役不適格者、ハンセン病患者、徴兵忌避者ら、日本の帝国時代に「非国民」とされた者たちの手による短歌を通じて描く文学論。彼らは国民の枠から除外されたものの、実はより「国民」的な視点であったという逆説的(パラドキシカル)な側面を掘り下げる。国家が求める「良き納税者」だけが国民ではないのである、ということを書き示したものの。

奥尻のつり 春後半号

今年の春ボツケは6月の初旬まで残りまして、釣りは楽しい思いをしました。といっても、根(寝)ボツケは5月中旬頃までで、その後はローソクボツケか、その幼魚くらい小さいのも多くいました。同じくカレイも港湾を中心に飽きない程度に釣れ、コロナの影響で島外へ出られなかった町民たちが竿を並べていました。一方、ソイ類は昨年よりは少ない印象で、11月以降の秋シーズンが期待されます。6月1日から解禁されたマイカ漁は、昨年の同時期よりは漁獲があるようで、島内の船は連日夜中まで操業していました。7月に入ると岸寄りしなくなったようで、漁火は遠くに見えていました。その後、7月15日より8月10日までがウニ漁の時期と決定され、夏本番になるにしたいが、次第にマイカの姿は見えなくなってしまいました。

昭和奥尻生活詩 新谷清二の鳥賊つけ1ヶ月 第39回

釣石尋常小学校高等科二年生 文集「鳥の子」第八号より  
ん飛たにビしいにめの舟下や面れ来投ののり良賊  
でんとつ岩乍るはた所をすっ白をてげ上ゴにいを朝八月  
いで思けまら。針。か下。たく見パてをロ行しき鳥賊  
るきうてで釣ずハザらすゴ。なてクや飛をく風い鳥十六  
。ての投二う十ル、。ロ家っ左とっん取とだてか六日  
磯かげ籽たっ本三延沖をにて右喰たでっ兄か来ら日へ  
舟何ても。とか枚繩に持来一かつらいてがらた帰へ日  
の処釣あ辨ヲらもを漕ってつらた。たき言沖。っ日曜  
側らるる天ッ百下下いて船二飛。ツ。たうに今てく日  
をを。崎ッ本しした兄かつん外ウゴ。の秋日く日  
ウとゴゴか岩位たて。とらとでのとロゴで刀はる〜  
ロもメロらまつ。釣辨二鳥投くゴ降をメ、魚天途  
、な投をうでいザリ天人賊げるメリーが鳥を氣中鳥  
飛くげ針ッ流てル始様磯をて。此てつ船賊釣も鳥

け二館請来と口者の挙内学  
た週市に自道ナをも行で式六  
た間内従肅に感募、とはが月  
め程及いとよ染集同な今行一  
で度び、、る予し校り年わ日  
すの島生町都防てはま度れ、  
。待内徒の道策い全し最ま奥尻  
機寄に入府とま国た後し高校  
期宿対島県しすか。のた高校  
間舎し自間てがらと入がで  
をでて肅の、入い学、で  
設の函要往国コ学う式道入

道内最後の入学式



目印にちょうどよい?

そんが後てはでれ入穂へてさ  
うの特に知網いは口ふ四いんこ  
で船定海らがた、にれ爪たよの  
すでさ洋れ引も昔設あ錨とり度  
。引れ調てつのか置い〜思北、  
き、査いかでらさ研がわ前谷  
上青でまか、青れ修寄れ船地  
げ苗正しる漁苗まセ贈るで地区  
たの確た場師沖しんさ大使区  
も中な。所のにたたれ型用の  
の島場震と間沈。1、のさ枝  
ださ所災してでんこの稲錨れ松

北前船の錨を公開

人りまカも種勝が峙類知の  
たしすタ言をつあしはとでと  
ちて。カえつてり、数のすんだ  
の日意ナまなきま打々戦。だ  
才本訳用す。いたすちのい。未  
能語し語。でも。勝難、知の  
にをたが聴きのいつ題、こと  
敬充りあきたがえて、れの中  
服て造ふ慣の現、き難ま遭な  
でた語れれだ在打た敵で遇、  
す明してな、まち経にも、た  
。治たいいとで。緯対人未も

新衣之記録(編集後記)

を行まも務官マベ(の業催島  
悩事いのな公ラつ(賽学式行内コ  
ま催ま全ど序ソのの校・にのロ  
せ行して、のン祭)河行入もイナ  
てのた。が大会な、原事学影ベウ  
い可。中人議ど、祭、や、式響ン  
ま否そ止数なのム・室奥運ま各  
しにのとがど観、津尻動し種  
た。つ担な参の光ン津祭三会、  
い当つ加出行ラ祭、大な、事  
て者てす張事イ・大な、卒の  
頭はしる用、ト祭など卒のは

イベント行事の中止相次ぐ



今月の奥尻のお宝

ロケットカード